

第3章

港区版

架け橋期のカリキュラム

1 架け橋期の構造

架け橋期の2年間でより一層、学びのつながりを意識できるように、子どもの発達や学びのプロセスについて考えてきました。



I期（5歳児前期）

幼児期の教育

II期（5歳児後期から1年生前期） 次の期への移行の教育が行われている

III期（1年生後期）

小学校の教育

2 共通の視点

I期・II期・III期の各期には、共通の視点となる①から⑤の各項目について実践例から整理しています。

① 期待する子ども像

期待する子どもは、資質・能力が一体的に育まれている姿を表しました。

I期 5歳児4月～9月	II期 5歳児10月～1年生9月	III期 1年生10月～3月
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせる ・友達と互いの思いや考えなどを共有して、共通の目的の実現に向けて考えたり、工夫したりする 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと楽しみながら関わり、目的に向けて、自分で考えたり、工夫したり、協力したりしながら、あきらめずにやり遂げる ・様々な活動(授業)を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、必要感をもって取り組み、自信をもって行動する 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験で得たことを生かし、主体的に学習に取り組む ・学級の一員としてみんなでやることの楽しさを感じ、見通しをもって粘り強く取り組む ・自己発揮や自己調整する中で、自分の世界を広げていく

② 発達の流れ

2年間の中での遊びや学びに向かい方について捉えました。

I期 5歳児4月～9月	II期 5歳児10月～1年生9月	III期 1年生10月～3月
目的をもって遊びを楽しむ	目的を共有し 自覚的に学んでいく	前の経験を生かして より一層、自覚的に学習する

③ 園での体験や経験と各教科等の学習のつながり

I期からII期、III期へと移行していく中で、特にII期以降では、幼児期の体験や経験を生かしてその体験や経験が継続して学習が始まっていきます。その後も、子どもの意欲を継続できるようにしながら、目的を実現したり友達と協同する楽しさや充実感を味わったりできるようにしていきます。

I期 5歳児4月～9月	II期 5歳児10月～1年生9月	III期 1年生10月～3月
幼児期の体験・経験⇒	幼児期の体験・経験を生かし、継続した学習が始まる⇒	
<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたい」「やってみよう」意欲 ・試行錯誤しながら目的を実現 ・友達と協同する楽しさや充実感 		<ul style="list-style-type: none"> ・「やりたい」意欲の継続 ・ありのままの自分を発揮し、自分で考えて、目的を実現 ・友達と協同する楽しさや充実感

④ 指導上の配慮点 (別紙 各期に記載)

保育士・幼稚園教員・小学校教員の主な「関わり方」や配慮について記載しました。

⑤ 環境の構成 (別紙 各期に記載)

幼児教育で実践している「環境を通して行う教育」の考え方を、小学校教育においても、ICT活用による環境を含めて記載しました。

なお、共通の視点の①から⑤までのそれぞれの内容を表にまとめていますが、より詳細な取組については、各園・各小学校の実情に応じて、よりよい実践につなげていくことが大切です。

3 小学校教育の学習の始期

「港区版 架け橋期のカリキュラム」を、各園・各小学校で実効性のある取組にするため、架け橋期2年間において、「学びのつながり」の理解を深めることが重要であることを述べてきました。

その「学びのつながり」を、保育士・幼稚園教員、小学校教員が実感できるようにするため、実際にどのように子どもと関わっているのか、どのような言葉を掛けているのか、その結果としての子どもたちはどのような姿を見せているのかについて検証しました。

例えば、国語(ことば)では「話すこと・聞くこと・読むこと・書くこと」、算数では「数」、「体育」

では「体づくり運動」を主な視点として、子どもの言葉を引き出す関わりや自分で考えることを促す言葉掛けについて、実践の中から出し合いました。すると、Ⅱ期には、小学校教育の学習が始まる入り口のようなものと捉え、その入り口のようなもの、つまり「小学校教育の学習の入り口（始期）」を、「とびら」としました。

Ⅱ期は、行きつ戻りつしながら小学校の「学び方」を学ぶ重要な期間であると捉えました。

4 港区版 架け橋期のカリキュラム

(1) 幼児教育と小学校教育で共通する大切にしたいこと【令和7年度】

令和7年度は、カリキュラム（モデル案）の検証として、「学びのつながり」を保育士・幼稚園教員、小学校教員が一層、実感できるようにするため、子どもとの関わり、子どもへの言葉掛け、その結果としての子どもの姿を検証しました。そして、Ⅱ期の実践を中心に、と、**幼児教育と小学校教育に共通する大切にしたいこと（参考1 95頁）**と、**幼児教育において経験してほしいこと（参考2 96頁）**を整理しました。

(2) カリキュラム（モデル案）【令和6年度】

「港区版 接続のカリキュラム」は、以下の3期から構成されています。

- Ⅰ期（5歳児4月から5歳児9月まで）
- Ⅱ期（5歳児10月から1年生8月まで）
- Ⅲ期（1年生9月から1年生3月まで）

カリキュラム（モデル案）を検討する際に、子どもの日常生活をとおした言語に着目して接続を考えました。

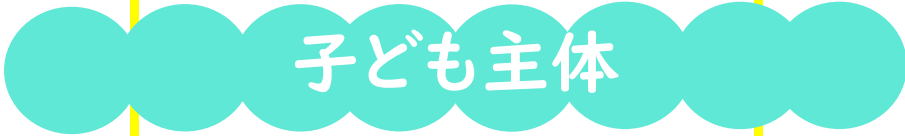
国語科では、「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」に、算数科では「数」に、体育科では、「からだづくり」に視点を当てて、生活の中での言葉掛けをあらいだし、学びのつながりを検討しました。

小学校教育の学習の入り口（始期）には、どのような言葉かけをするのかに注目してみると、幼児期の経験を生かした言葉掛けを意識していることが分かりました。さらに、小学校教育の学習の入り口での言葉掛けから小学校教育の学習の単元を見通してみると、幼児教育では、その単元につながる直接的・具体的な体験や経験がとても重要であることがわかりました。

学びのつながりを意識した言葉掛けの工夫例をあげていますので、参考にしてください。

- 生活の中での「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」に視点を当てて
- 生活の中での「数」に視点を当てて
- 生活の中での「体づくり」に視点を当てて

【参考1】 幼児教育と小学校教育に共通する大切にしたいこと

	幼稚園・保育園	共通する大切にしたいこと	小学校
子ども理解		 子ども主体	
対話・表現	・「その子なり」を受け止める	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの興味・関心を知ろうとする。 一人ひとりの思いを受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生や友達の話を集中して聞けるようにする 書く紙を選択できるようにする 動作化を取り入れる 4～6人の生活班で活動する
子どもが安心して自己肯定感を感じられるように		<ul style="list-style-type: none"> よい発言・よい行動が他へ広がるようにする 子どもたちの考えるチャンスを奪わないようにする 子どもの考えや意見を否定せず、受け止め、できるだけ実現できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 必要な我慢を経験し、よい結果につなげる
先行経験からの安心感		<ul style="list-style-type: none"> 困ったときに「どうしたらいいと思う？」と尋ねる ルールは一度に与えすぎない 振り返り、見直しをもてるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 園ではどうしていたかを聞く 時間を守ることの大切さを伝える
学習内容	・読み聞かせを多くする	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの問いを引き出すことを大切にする 子どもが気づいたことから学びをスタートする みんなで活動し「わかってできるようになって楽しい！」と感じることを多くつくる 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの感覚として「遊んだ」という感覚、教科のねらいに迫っていく展開をする
活動・展開	・体を動かす機会を多くとる	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な活動を入れる 活動をメインに、アクティビティを多く取り入れる 	<ul style="list-style-type: none"> 一つ一つの活動時間を短く区切る 授業は15分、15分、15分で組み立てる
教師の行動	わかりやすい言葉で理解できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> 字だけでなく、絵や写真を使う（板書など） 言葉だけでなく、目で見てわかる掲示物、（朝の支度の仕方、帰りのしたくの仕方、当番表、ルーレット、実物、ブロック） 指示を短く 具体的に一つずつ 視覚的にわかりやすく 	<ul style="list-style-type: none"> 黒板とノートのマスをそろえる 板書を丁寧に書く（見本になる）
環境の構成	・自分でやってみる具体物の活用	<ul style="list-style-type: none"> 環境から学べるようにする 環境デザインを 	<ul style="list-style-type: none"> 行動、具体物 具体的を多く（算数）
生活指導・援助希求		<ul style="list-style-type: none"> 思っていることを言葉で伝えられるように引き出す。受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> 通学路を理解している 帰る先を理解している 自分のことが自分でできる 給食を食べることができる

*Ⅱ期で大切にしたいことについて、保育園・幼稚園、小学校の部員で協議した中から、主な項目を抜粋。

【参考2】幼児教育において経験してほしいこと

子ども主体

10の姿	I期	II期 経験してほしいこと	修了の頃の姿
健康な心と体		<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりに目標を決めて挑戦する ・自ら安全な生活をつくり出そうとする ・いろいろな運動遊びを楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい、嬉しい、悲しい、困ったなどの感情を表出する ・見通しをもって時間を意識して行動する ・安全に生活できるよう意識して行動する
自立心		<ul style="list-style-type: none"> ・思うようにいかない、うまくいかないなどのとき、原因やよりよい方法を考え、繰り返し挑戦する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自信をもって生活する ・自分を誇らしく感じる ・小学校就学への期待 ・安心感をもって過ごす ・身の回りのことが一人でできる ・自分の好きなことをもっている ・嫌だと思っても少しはやってみようとする(挑戦) ・自分のことは自分でする。
協同性 *共通の目的とは -あなたと私(友達とできた!) -学級として(その中で自分一人ひとり力が力を出した)		<p>【簡単な目的、チームで一つの目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に向かって、互いの考えを受け止め合ったり、受けいれ合ったりして話し合いを進める。 ・仲間と役割分担し、作戦を立てたり力を合わせたりして、一つの目的を達成しようとする。 ・友達の思いや得意なことが分かる ・友達のよさに気付く、認める ・目的に向かって根気強く最後までやり遂げようとする <p>【グループや学級としての目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明確な同じ目的をもった少人数の友達と一緒に考えを出し合ったり受け止め合ったりして協力して取り組む ・予測を立てる ・共通の目的に向かって考え、みんなでより楽しくなるように力を出し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の目的に向かって友達と考えを実現させることを楽しむ ・解決に向けて自分たちで折り合いをつけながら、実現する
道徳性・規範意識の芽生え		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の主張が通らないことがあっても、気持ちを調整したり、折り合いをつけたりする ・交通ルールや公共の場でのマナーを知り、守ろうと意識する ・友達とルールをつくり、ルールに沿って遊ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・してよいことや悪いことがわかる ・相手の立場にたって考えたり、行動したりする ・きまりを守る必要性がわかる ・友達ときまりをつくったり、守ったりする
社会生活との関わり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域への関心や地域の方に親しみをもつ(知っている店、家、建物、地域の方など) ・他園の人との交流を楽しむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人に自分から関わる ・自分が役に立つ喜びを感じる
思考力の芽生え		<ul style="list-style-type: none"> ・思うようにいかない、うまくいかないなどのとき、原因やよりよい方法を考え、繰り返し挑戦する ・自分なりに試行錯誤したり粘り強く取り組んだりする ・イメージを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考える ・試行錯誤して工夫する

	I 期	II 期 経験してほしいこと	修了の頃の姿
自然との関わり・生命尊重		<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生き物に興味をもち、飼育するために必要なことを、図鑑で調べたり、飼育したりして、生き物の命の大切さに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊さに気付き、愛情をもって接したり、大切にすることをもちて関わる
数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚		<ul style="list-style-type: none"> ・文字や数への関心を高める ・ルールのある遊びの中で、人数を合わせる ・必要感があって数を数える、文字をかく ・順番や勝敗のある遊びから人数、物の数など、数を数えたり量を比較したりして、数への感覚を働かせる ・教材の性質に気付き、箱の積み方を考えるなど 図形の感覚を働かせる ・様々な素材を使って遊ぶ ・視覚的な情報から物の長さや高さ、量、大小などの感覚を働かせる ・文字を相手に伝える手段として使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・物の長さや高さ、量、大小を感覚としてとらえる 文字やイラスト、写真などの情報や、教師や友達の話などの情報を取り入れ、意味を理解して行動する ・文字への関心が高まり、読んだり、書いてみようとしたりする
言葉による伝え合い		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言葉で、感じたこと、考えたことを伝える ・チーム(10人程度)の中で思いを伝える ・自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする ・自分の思いを相手に伝わるように言葉で伝える ・「〇〇だから△△がいい」という自分の考や理由をもって、相手に伝える ・思いや考えを言葉で表現し、相手に伝わる喜びや受け入れられる嬉しさを感じる 	<ul style="list-style-type: none"> ・困っていることを自分の言葉で発信できる ・大人に助けを求められる ・自分の気持ちを相手に分かるように伝える ・分かる言葉を選んで伝える ・自信をもって自分の考えを伝える ・自分の思いを受け止めてもらえるという安心感
豊かな感性と表現		<ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要なものを身近な材料でかいたりつくったりする ・新たな言葉の響きから意味を想像し、イメージを広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを表現したり、表現する過程を楽しんだりする。

*幼児教育においてII期に経験してほしいことについて、保育園・幼稚園の部員で協議・検証した中から、主な項目を抜粋。